

CONTENTS:

- P1 教員研修会開催
- P2 寄稿 (1)
- P3 寄稿 (2)・(3)
- P4 2015年度後期授業アンケート結果報告

教員研修会を開催しました

2015年度教員研修会 11月18日開催

- テーマ
「学生から文句を言われたい成績評価（ルーブリック）
— 特にPBL科目におけるルーブリックの有効活用法 —」

- 講師
滋賀県立大学 理事兼副学長
倉茂 好匡 氏

- 会場
765教室（大宮キャンパス）



講演を行う倉茂先生

滋賀県立大学 理事兼副学長 倉茂 好匡 先生を講師としてお迎えし、本学教務委員等の教員35名を対象に、「学生から文句を言われたい成績評価（ルーブリック）—特にPBL科目におけるルーブリックの有効活用法—」研修会を実施しました。

本学のシラバスには、成績評価基準を記載する項目がありますが、その内容にルーブリックを取り入れるまでには至っていません。また、ルーブリックについては、「どのようなもので、どのように活用できるのか」、「厳格かつ客観的な成績評価に有効なものとは分っているが、学習の到達目標に対してどのような手段で評価するか、またその評価基準をどのように明示するのか」など、ルーブリックの意味や使い方など教員間に温度差があるようです。

今後、本学の教育において「成績評価の厳格化」を目指すためには、ルーブリックの利用は必須であり、まずは各学部学科の教務委員にルーブリックの基礎を修得いただく目的で、次の構成で本研修会を開催しました。

- 第1講 到達目標に応じたルーブリックとは
- 第2講 ルーブリックの有効利用法
- 第3講 ルーブリックを作ってみよう—個人ワークとグループワーク—
- 第4講 ルーブリック発表会

参加者は、7つのグループに分かれて、第1・2講で「ルーブリックとは何か」「ルーブリックがもたらす効果とは」「ルーブリックの作成方法」などの講義を受講し、ルーブリックに関する知識と理解を深めました。その後、第3講で各教員が実際に担当している授業科目の成績評価基準をルーブリックで再作成する個人ワークと、その成果をグループ内で発表し討論するグループワークを行いました。最後の第4講では、各グループで特長であったルーブリックを全体で発表し、グループや学部の垣根を越えた様々な意見や改善案が飛び交う白熱したワークショップとなりました。

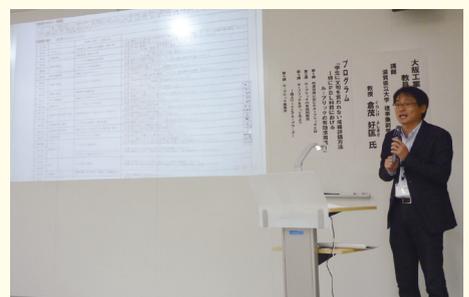
10～17時というハードなスケジュールで本研修に参加いただいた先生方、お疲れ様でした。今回の研修が、今後の成績評価改善に向けて端緒となり、その流れが全学的な厳格な成績評価の実現に至ることを期待したいと思います。次頁以降に記載した参加された教員の感想をご覧ください。



グループワーク



全 景



発 表

(P2に続く)

参加者アンケートの集計結果を紹介します

参加者 35名

「研修会の満足度」 選択回答 集計結果

良い=14名(40.0%) まあまあ良い=18名(51.4%) 普通=1名(2.9%) やや悪い=0名(0%)
悪い=0名(0%) 未回答=2名(5.7%)

「教員研修会」 参加者から寄せられた感想を紹介します

- 同一の課題であっても、ルーブリックを用いて多様な評価の視点や方法があることが分かり、また、班員で検討できた点が良かった。
- ご説明いただいた内容も分かりやすく、グループワークについても他の専門分野の方々との交流が図れたので、大変有意義だった。
- ルーブリックの具体的な活用方法が理解できた。
- 実際の作業を通して、現行シラバスの記載内容・方法に修正が必要なことを発見することができ、全体的に有意義であった。
- 到達目標と評価基準とのリンクが不十分であったことを痛感できて良かった。
- 既に作られたルーブリックの失敗例が大変参考になった。
- 到達目標と評価基準割合のリンクをルーブリック形式で整理することで、現在の目標の曖昧さ、自身の評価基準の見直しや成績評価の効率化・明確化に大変役に立った。
- 担当教科にいかに関与させるかを考える良い機会となった。
- シラバス作成・授業内容の構成に役立つヒントを得ることができた。
- 学部・学科単位でフィールドワークの評価方針を決めるというのは面白いと感じた。
- ルーブリックは名前だけ知っていたが、今回全体像を把握することができた。
- グループで様々な専門分野の先生方とディスカッションすることによって、色々と刺激を受ける良い機会になった。
- 「到達目標」と「評価方法」の整合性を『シラバス』上でとる(検証する)必要があることに気付いて良かった。
- 実際に今の担当科目を使って考えることは良い機会だった。

寄稿(1) 「教員研修会に参加して」



知的財産学部知的財産学科
教授 岩本 章吾

教員研修会に参加し、滋賀県立大学の倉茂好匡先生の「学生に文句を言われたい成績評価方法—特にPBL科目におけるルーブリックの有効活用法—」というお話を拝聴し、大変勉強になりました。

恥ずかしながら私は、「ルーブリック」(rubric)などという単語を聞いたことがありませんでしたが、成績評価基準のことだと知りました。

成績評価をいかに公正、公平に行うかということは、教員にとって極めて重要であることは言うまでもありません。

私自身にとっても、これは大変切実な問題です。というのは、私は法学科目を担当している教員ですが、試験問題又はレポートの課題に、通常、簡単な記述式問題を出します。例えば、「○○○について、判例・通説を紹介するとともに、貴方の考えを述べなさい。」「△△△については、政府は改正を目指している旨報道されていますが、この問題に関する貴方の考えを述べなさい。」といったものです。

穴埋め問題や○×問題ではなく、記述式問題であっても、評価において、「優、良、可、不可」「A、B、C、D、F」などの4～5段階程度の大まかな評点をつけるのであればさほど問題は

ないのですが、本学のように、100点満点の素点評価をする場合、1点の狂いもなしに完璧に公平な評価をすることは非常に困難なことです。

レポートを提出させる場合、御多分に漏れず、私の科目でも、何かからコピー&ペーストしたり、他の学生の書いたものを丸写ししたものが出てくることがあります。以前、あるクラスのレポートの評価結果を見直しているときに、全く同じ内容の2つのレポートに、自分が若干の点差をつけていることに気付き、「嗚呼…」と天を仰いだことがありました。

倉茂先生によれば、①各科目の到達目標と連動した厳密なルーブリックを作成し、しかも、②それを前もって学生に知らせておくことにより、評点のバラツキが小さくなるとともに、学生からのクレームが減るとのことでした。

①については、いくら細かくルーブリックを作成しても、1点刻みのバラツキを根絶することは困難かとは思いますが、研修会で実習させていただいたように、ルーブリックの精緻化を図る努力は必要だと痛感しました。②は、私などには驚愕すべきことで、学生に試験問題を事前告知することになりかねないという疑問を持つのですが、倉茂先生によれば、試験問題を「ある程度」知らせ、その評価基準を学生に事前通知しておく、むしろ学生の試験準備の学習の質が上がることも多いとのことでした。その他、赤字入りの答案を学生に返却しているという話も、学生の納得を得るとともに、万一の採点ミスを是正する上で、見習うべきかと考えさせるものでした。

研修会で学んだことを基礎に、自分なりに成績評価を一層工夫したいと思います。

寄稿 (2) 「教員研修会に参加して」



工学部電気電子システム工学科
准教授 見市 知昭

講師の倉茂先生のお話を聞くのはこれで3回目になります。1回目は2010年に本学で開催されたFDフォーラムにて。机間巡視や発問の実践例をそこで初めて(?)体験することができました。なるほど、と思いながらも自らの講義で即実践とは行かず時は過ぎ、2回目、2012年の滋賀県立大学での研修会を迎えます。初回の講演で学習した内容をすっかり忘れてしまっていた私は、単に話を聞くだけで良いだろうと甘く考えていたのですが、冒頭、誰がどこに座っているのかわかるよう座席表に名前を書くというイベントがあり、一気に身が引き締まったことを覚えています。さすがに、ここでの講演を聴き、自らの講義で発問などを取り入れましたが、元々不得意だったこともあり、まだまだ浸透していないのが現状です。そして今回が3回目。研修には慢心なく真剣な気持ちで参加しました。

これまでの講演や研修で話題にあがっていたルーブリックについての研修でしたが、10時~17時まで、みっちりと段階を追って自身の担当科目のルーブリックについてワークし、それらの内容を段階ごとに5名程度のグループ内で発表、さらにそのグループの中で特長的だった内容を全体で発表という流れで進みました。担当科目にルーブリックを設定する作業は私にとってはバズルのように面白く、時間がたつのを忘れるほどで、もっとワー

クの時間を与えてくれればより良いものができたのと思うほどでした。残念ながら私の内容は全体で披露するには至りませんでした。が、班内や全体で他の参加教員の内容を聞くことで、非常に刺激になり、参考になりました。

学生に文句を言われたい成績評価方法というタイトルでしたが、このルーブリックは複数の教員が担当する科目に特に効果的だと感じます。他学科でも同様だと思いますが、電気電子システム工学科でも電気電子システム実験 a、b、c という実習科目があります。これらは各一科目9名の担当でほぼ個別の実験テーマをローテーションして進めます。現状では各テーマの報告書の成績評価は一定の指針があるものの担当教員にお任せの状態です。これまで学生に文句は言われてないものの、偏りが出ている可能性があります。しかし、研修で教わった、「どうい評価方法を行い、どうい採点方法を行うかを教員間で共有し、それを学生にも知らせておく」ということを行えば、この問題は解決できます。

その一方で、事細かな採点の基準を示すと、それに沿った形でしか学生は学習しないので、教育的に良くないのではないかとこの疑問が浮かびます。その事についても話題にあがりましたが、低学年のうちは細かな基準を示して基本を身につけさせ、高学年では具体的な記載はせずに自分で考えさせるようにルーブリックの内容を変えていくのがよいとのことでした。以上のことから、一科目の担当者でなく、学科全体で学生をどのように教育していくのかを考えていく際に、ルーブリックはとても有効な手段だと言えます。今後、学科内でどこまで浸透できるかはわかりませんが、研修を受けた者として、まずは新規開講科目の高年次PBL科目への導入を進めて行きたいと思います。

寄稿 (3) 「教員研修会に参加して」



情報科学部情報ネットワーク学科
准教授 安留 誠吾

教員研修会のキーワードは、「ルーブリック」です。もちろん、キーワードを事前にググっておきました。なにやら「公平な評価を行うためのツールらしい」ことはわかりました。そうしたところ、ある授業で、教職を履修している学生の資料が目に入り、「ルーブリック」と書いてあるではありませんか。早く研修を受けて、学生に文句を言われないようにしなければと、期待と不安のなか参加しました。

研修会では、段階的にルーブリックを作成し、グループ毎に発表を繰り返し、特定の科目のルーブリックを完成させました。特に、「個人の評価とグループの評価」に興味があり、グループの評価を行うために「1名を指名し、その評価をグループの評価とする」ということでした。グループの評価となることが事前にわかっていたら、誰が指名されても評価を上げるためにグループの皆が努力するという理由です。この指名をいつ行うのが効果的なのだろうと疑問に思ったまま、研修会が終了しました。すると突然、「FD NEWSに感想を、各学部から1名、、、」ということでご指名が。

これは、情報科学部というグループの評価を任せられたということか？

責任は重大だが、グループの力を借りることはできない。。。さて、何を書けばいいのだろうかかと悩んでいるとすぐに、「ルーブリックが示されていればいいのに」と。感想を書くはずが、ルーブリックを作成することから始まりました。

まず、到達目標を決め、評価手段と評価比率を考えます。

到達目標	評価手段	評価比率
1) 研修会の内容に触れている。	感想文	30%
2) 研修会で得たことを述べている。	感想文	30%
3) 研修会で学んだ事柄を今後活かす内容を入れている。	感想文	15%
4) 講師の方を含め、スタッフに感謝のこたばを入れている。	感想文	15%
5) 誤字脱字がなく、段落分け、文字数も適切である。	感想文	10%

次に、第1段階ルーブリック、第2段階ルーブリックを作成していきますが、ここから先は省略します。

(さて、ここまでで抜けている内容は、到達目標の3)4)です。)

最後になりますが、「ルーブリック」について知る機会を与えてくださった、倉茂先生を始め、スタッフの皆さんに感謝いたします。早速に、複数教員で個別に評価を行っている科目を手始めにルーブリックを作成して行きたいと思います。

(この感想の評価はいかに。)

2015年度後期に実施した授業アンケートの概要と集計結果を報告します

【実施科目数等】 ※実施期間：第14回目または第15回目（8週で終了するクォーター科目は第7回目または第8回目）

区分	対象科目	科目数	履修者数	回答者数	回答率(%)
学部	後期前半クォーター科目	6	26	11	42.3
	後期科目	1,595	62,100	42,625	68.6
	後期後半クォーター科目	—	—	—	—
大学院	後期前半クォーター科目	14	185	67	36.2
	後期科目	114	790	477	60.4
	後期後半クォーター科目	9	132	64	48.5
合計	後期前半クォーター科目	20	211	78	37.0
	後期科目	1,709	62,890	43,102	68.5
	後期後半クォーター科目	9	132	64	48.5
総計	後期全科目	1,738	63,233	43,244	68.4

【設問項目】

設問内容	選 択 肢
問1 この授業は、「授業のねらい、到達目標、進め方、使用する教科書・参考書、成績評価方法」について、授業初回に資料などを用いて説明が適切に行われましたか？	5：適切であった 4：ほぼ適切であった 3：どちらとも言えない 2：あまり適切でなかった 1：まったくなかった
問2 この授業は、シラバス記載内容あるいは授業初回の説明に沿って進みましたか？	5：進んだ 4：ほぼ進んだ 3：どちらとも言えない 2：あまり進まなかった 1：まったく進まなかった
問3 この授業は、学生の理解度を配慮しながら進められましたか？	5：強くそう思う 4：ややそう思う 3：どちらとも言えない 2：あまりそう思わない 1：まったくそう思わない
問4 この授業は、教員の話し方は明瞭で、わかりやすかったですか？	5：強くそう思う 4：ややそう思う 3：どちらとも言えない 2：あまりそう思わない 1：まったくそう思わない
問5 この授業は、黒板の使い方、文字の大きさ・見やすさ、映像資料の図や文字の見やすさ、は適切でしたか？	5：適切であった 4：ほぼ適切であった 3：どちらとも言えない 2：あまり適切ではなかった 1：まったく適切ではなかった
問6 この授業の進行度は、内容を理解し到達目標を達成するのに適切でしたか？	5：適切であった 4：ほぼ適切であった 3：どちらとも言えない 2：あまり適切ではなかった 1：まったく適切ではなかった
問7 あなたは現時点で、この授業の到達目標をどの程度達成できたと思いますか？	5：100%～90% 4：90%未満～80% 3：80%未満～70% 2：70%未満～60% 1：60%未満
問8 この授業1回あたり平均して、予習・復習・レポート作成・課題作成（準備）に何時間かけましたか？	5：3時間以上 4：2時間台 3：1時間台 2：30分～1時間 1：30分未満
問9 総合的に考えて、この授業を受講してよかったと思いますか？	5：強くそう思う 4：ややそう思う 3：どちらとも言えない 2：あまりそう思わない 1：まったくそう思わない
問10 この授業を良くするための意見、改善して欲しい事項があれば入力してください。	自由記述

【集計結果】 ※大学院を除く

学部	学科等	科目数	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9
工学部	都市デザイン工学科	34	4.12	4.13	3.87	3.89	3.84	3.91	3.30	2.93	3.99
	空間デザイン学科	40	4.50	4.43	4.30	4.36	4.37	4.34	3.49	3.14	4.43
	建築学科	29	4.40	4.35	4.10	4.18	4.18	4.18	3.28	2.93	4.34
	機械工学科 (後期前半クォーター科目)	2	3.50	4.00	4.50	4.00	5.00	4.50	2.50	3.50	4.50
	ロボット工学科	83	4.26	4.26	4.01	4.08	3.98	4.04	3.27	2.84	4.06
	電気電子システム工学科	49	4.28	4.27	4.00	4.10	4.12	4.02	3.17	2.88	4.12
	電子情報通信工学科 (後期前半クォーター科目)	4	4.89	4.89	4.78	4.67	4.78	4.67	3.89	2.78	4.78
	応用化学科	88	4.25	4.24	3.88	3.93	3.95	3.95	3.11	2.89	4.03
	環境工学科	42	4.33	4.33	3.98	4.08	4.13	4.09	2.90	2.84	4.14
	生命工学科	39	4.33	4.33	4.04	4.11	4.05	4.08	3.12	2.89	4.09
	生体医工学科	46	4.18	4.18	3.90	4.00	3.98	3.94	3.05	2.94	3.94
	共通科目	4	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	その他連携科目	112	4.39	4.41	4.19	4.28	4.28	4.26	3.33	2.56	4.18
	キャリア形成の基礎	13	4.20	4.23	4.12	4.10	4.01	4.06	3.37	1.94	4.01
	工学の基礎	193	4.35	4.41	4.17	4.20	4.21	4.20	3.47	2.27	4.12
	情報科学部	175	4.23	4.28	3.94	3.99	4.08	4.02	3.27	2.57	4.02
	情報システム学科	62	4.21	4.25	3.90	3.96	3.98	4.03	3.08	2.64	4.02
情報システム学科	67	4.24	4.28	3.97	4.03	4.06	4.06	3.10	2.77	4.05	
情報メディア学科	69	4.20	4.21	3.91	3.96	4.00	3.99	3.17	2.90	4.01	
情報ネットワーク学科	62	4.23	4.24	3.96	4.01	4.06	4.04	2.95	2.72	4.01	
共通科目	111	4.21	4.24	4.02	4.03	4.05	4.06	3.07	2.25	3.98	
知的財産学部	専門科目	57	4.54	4.50	4.43	4.47	4.44	4.45	3.55	2.70	4.42
	基礎教育科目	53	4.58	4.58	4.35	4.54	4.52	4.48	3.36	2.69	4.31
	その他連携科目	2	4.30	4.24	4.10	4.16	4.13	4.15	3.33	2.82	4.06
	導入領域	18	4.32	4.33	4.13	4.16	4.19	4.20	3.55	2.75	4.16
	教養領域	40	4.27	4.30	4.02	4.07	4.10	4.08	3.27	2.52	4.01
	専門領域	35	4.30	4.28	4.08	4.12	4.04	4.11	3.17	2.80	4.09
	展開領域	4	4.45	4.43	4.17	4.23	4.26	4.28	3.30	2.99	4.25
	教職科目	34	4.43	4.42	4.33	4.42	4.35	4.36	3.43	2.56	4.41
平均(合計)	6 (後期前半クォーター科目)	4.64	4.73	4.73	4.55	4.82	4.64	3.64	2.91	4.73	
統計	1,595	4.28	4.30	4.02	4.07	4.09	4.08	3.22	2.64	4.08	
統計	1,601	4.28	4.30	4.02	4.07	4.09	4.08	3.22	2.64	4.08	

授業科目に係る情報の公開について

教育の質向上や教育効果の測定に関わる全学的な取り組みとして、2014年度から授業アンケートの結果および当該授業科目の受講者数、成績分布、合格率等の授業情報について公開を行いました。

本学では授業アンケートの継続実施だけでなく、授業参観の実施やシラバス記載事項の見直しなどの教育改善に取り組んでいます。それらに加え、さらなる教育の質向上を図る一つの方策として、授業アンケート結果の公開範囲を拡大しました。

大学ホームページ「在学生のかたへ」画面の「学生による授業アンケート結果・成績評価状況等(学内専用)」をクリックしてご参照ください。

～FD NEWSを教職員の情報共有にお役立てください～

学部・学科・小グループ・個人での取り組みや活動をFD NEWSに投稿してください。
授業運営上の悩みを解決した方法などがあれば情報共有していきましょう。

【お問合せ先】

大阪工業大学教務部教務課
TEL.06-6954-4083
FAX.06-6954-4049
kyoumuka@ofc.oit.ac.jp